

千葉大学

国際教養学部 開設記念

研究シンポジウム



# 流動化する社会と移民たちの戦略

## — 教育・キャリア・生活 —

(一般公開・参加費無料)

日時：2016年6月29日(水) 13:00~17:00 (受付開始12:00)

場所：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館大ホール

主催：千葉大学 国際教養学部

### 【プログラム】

13:00 開会挨拶：小沢 弘明 (国際教養学部長、副学長) (司会：福田 友子)

13:05 趣旨説明：福田 友子

13:15 第1部 基調講演 **伊豫谷 登士翁** (一橋大学 名誉教授)

「国境を越える人の移動を考える — 歴史の揺らぎと再編」

14:30 第2部 パネルディスカッション

「流動化する社会と移民たちの戦略 — 教育・キャリア・生活」

### パネリスト

見城 悌治 (歴史学) 「近現代日中関係史における中国留学生の役割」

周 飛帆 (教育社会学) 「動詞としての移民」

五十嵐 洋己 (教育社会学) 「教育的休暇

— 日本人富裕層家族のトランスナショナルな教育・家族戦略」

小林 聡子 (言語人類学) 「駐米日本人高校生と教育空間

— 民族アイデンティティの言説的・空間的位置付け」

佐々木 綾子 (社会福祉学) 「グローバル社会のウェルビーイング

— インドネシア人介護福祉士のキャリアプランから」

コメンテーター：伊豫谷 登士翁

モデレーター：崎山 直樹・福田 友子

15:45 第3部 総括討論

16:45 閉会挨拶：小沢 弘明



「移民」とは何か。移民や移住と聞くと、どこか他人事のように感じるかもしれないが、本シンポジウムが取り上げる「移民」（国境を越える人の移動）は、留学、海外研修、駐在、帰国子女など、大学生にとって身近な事象をも包摂する概念である。本シンポジウムでは、移動研究およびグローバリゼーション研究の専門家を招き、移民研究が抱える学問的課題について考える。後半のパネルディスカッションでは教育・キャリアに焦点を当て、よりよい生活を求める移民たちが、流動化する社会の中でどのような戦略を講じてきたのかについて、歴史学・社会学・人類学といった学問分野の垣根を越えて議論する。

## 基調講演 伊豫谷 登士翁（一橋大学 名誉教授）

研究分野は移動研究、グローバリゼーション研究。

1947年京都生まれ。京都大学経済学研究科博士課程単位修得退学。一橋大学名誉教授。

主著に、『外国人労働者論』（共編 弘文堂 1992）『変貌する世界都市』（単著 有斐閣 1993）『ナショナリティの脱構築』（共編 柏書房 1993）『日本社会と移民』（共編 明石書店 1996）『グローバリゼーションのなかのアジア』（共編 未来社 1998）『グローバリゼーションと移民』（単著 有信堂高文社 2001）『経済のグローバリゼーションとジェンダー』（編著 明石書店 2001）『グローバリゼーションとは何か』（単著 平凡社 2002）『思想読本グローバリゼーション』（編著 作品社 2002）『移動から場所を問う』（編著 有信堂高文社 2007）『移動という経験』（編著 有信堂高文社 2013）ほか多数。

### パネリスト

- 見城 悌治（国際教養学部 准教授、歴史学）
- 周 飛帆（国際教養学部 准教授、教育社会学）
- 五十嵐 洋己（国際教養学部 助教、教育社会学）
- 小林 聡子（国際教養学部 助教、言語人類学）
- 佐々木 綾子（国際教養学部 講師、社会福祉学）

### モデレーター

- 崎山 直樹（国際教養学部 講師、歴史学）
- 福田 友子（国際教養学部 准教授、国際社会学）

### 【参加申込み・問合せ先】

[kikaku-cla@chiba-u.jp](mailto:kikaku-cla@chiba-u.jp)

会場準備の都合上、できるだけ事前の参加申込みをお願いします（当日参加も可）。件名を「移民シンポ参加申込み」とし、お名前、ご所属、連絡先（メールアドレス等）を上記アドレス宛にお送りください。



### 【アクセス】

- 京成みどり台駅（徒歩5分）

改札を出て左に直進し、3つ目の信号の先が正門。

- JR西千葉駅（徒歩7分）

西千葉駅北口を出て、バスロータリーを越えると南門。南門から入らず、そのまま5分ほど直進すると正門。